



公開討論会

Art Activism Then and Now

アートを通じた社会変革 —1970年代と現在をつなぐ—

パネリスト

- ノブコ・ジョアン・ミヤモト (Great Leap, Inc. アーティスティック・ディレクター)
- PJ・ヒラバヤシ (Taiko Peace、サンノゼ太鼓前アーティスティック・ディレクター)
- ウェズリー・ウエウンテン (サンフランシスコ州立大学准教授、同志社大学客員准教授)
- 太田恭治 (あとリエ西濱代表、元大阪人権博物館学芸員)
- 陳太一^{ちんてい} (東九条マダン実行委員長)

司会・通訳 : 和泉真澄 (同志社大学グローバル地域文化学部教授)

1968年にアメリカ西海岸で始まったアジア系アメリカ人の権利と尊厳を求める「イエローパワー」は、ベトナム反戦運動、性解放運動、「ブラックパワー（アフリカ系アメリカ人運動）」、「レッドパワー（先住民運動）」など、多くの民族と共闘して展開されました。アメリカのみならず、世界中の若者によって展開されたプロテストは、政治的活動だけでなく、音楽、芸術、ファッション、祝祭と哀悼など、さまざまな文化活動を伴うものでした。今回の討論会では、かつての、そして現在のアジア系アメリカ人コミュニティ活動に関わる日系人アーティスト3人と、関西で人権・民族問題に関わってきた2人の活動家が、アートを通じた社会変革の戦略と可能性について意見を交わします。



来聴歓迎
予約不要

日時： 11月 20日(木) 18:15-19:45

会場： 志高館 SK119教室

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp